

# 緊急消防援助隊情報

## 平成28年度地域ブロック合同訓練の実施結果 ～高市総務大臣 近畿ブロック訓練を視察～

広域応援室

### 近畿ブロック 奈良県実行委員会

平成28年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練は、五條市上野公園を主会場に、近畿府県合同防災訓練と併せて行い、多くの関係機関や市民が参加しました。

#### 1. 実施日

平成28年10月22日（土）～10月23日（日）

#### 2. 実施場所

五條市、橿原市

#### 3. 訓練想定

平成28年10月22日（土）午前9時、奈良県南部を震源とするM6.9の地震が発生し、五條市、御所市及び大淀町で震度6強を観測した。また、同日午前10時45分、奈良県中部を震源とするM6.4の余震が発生し、橿原市で震度6強を観測した。

この地震により、橿原市、五條市、御所市及び大淀町を中心に建物等の倒壊に伴う多数の被害及び負傷者が発生するとともに、火災も発生している。

#### 4. 被災地初動対応訓練

県庁舎で消防応援活動調整本部（以下、「調整本部」という。）を設置し、消防庁及び被災地市町村と連携を図り、応援要請等に係る情報収集及び情報伝達並びに緊急消防援助隊の受援及び活動に関する調整等を行う訓練を、ロールプレイング方式で実施した。なお、奈良県広域消防組合消防本部管轄内の複数市町村で応援の必要が生じたとの想定で行い、消防本部及び被災地消防署に指揮支援本部を設置し、各被災地の詳細な情報収集及び調整本部との連携を図った。

#### 《今後の課題等》

○ 調整本部設置運営訓練の会場スペースの関係で、県職員、指揮支援部隊長及び県内消防本部のリエゾン等の配置やホワイトボードの配置に課題があった。円滑な情報共有及び活動調整等のため、限られたスペースを有効活用したレイアウトや情報の伝達方法について検討する必要がある。

#### 5. 実働訓練

##### (1) 部隊参集訓練・初動活動訓練

統合機動部隊が先行して出動し、府県大隊の到着までの間、情報収集や初動活動訓練を行った。



消防応援活動調整本部設置・運営訓練（奈良県庁）

#### 《今後の課題等》

○ 部隊の進出拠点への参集に当たり、渋滞を緩和する目的で時間差を設けたが、災害時は複数隊が同時に到着することも考えられ、交通整理や車両動線の確保など、混乱を最小限に抑えるための配慮をした計画等が必要となる。

##### (2) 部隊運用訓練

各府県大隊は指揮支援（部）隊長の管理の下、関係機関と連携して各種訓練を実施した。訓練1日目は、参加消防機関が連携して2会場で7項目の訓練を実施し、訓練2日目は、自衛隊及び警察、DMAT等の関係機関並びに地元消防団が参加し、2会場で11項目の訓練を行った。本訓練では、被災地の地理的特性を考慮した土砂災害救出訓練や孤立集落救出訓練、トンネル崩落事故救出訓練等を設定した。



橋梁列車事故救出訓練（1日目：橿原市橿原運動公園）



陸上自衛隊と連携した土砂災害救出訓練 (2日目:五條市上野公園)

《今後の課題等》

- 緊急消防援助隊が関係機関と連携して救助・救出活動をするに当たり、現地合同調整所等を活用した情報共有及び活動調整が重要であることを認識できた。より円滑な相互連携を図れるよう、情報共有項目や調整の手順等について検討するとともに、訓練を継続し、相互理解を深めていく必要がある。

(3) 後方支援活動訓練

五條市上野公園及び樫原市樫原運動公園において、後方支援活動訓練を行った。なお、樫原運動公園においては、災害時における燃料不足を想定し、緊急消防援助隊への燃料補給体制の確保を目的とし、危険物仮貯蔵・仮取扱所設置運営訓練を行った。本訓練では、一時的な燃料の貯蔵や、手動ポンプ等を用いた金属製ドラム缶から金属製携行缶への詰め替え及び金属製携行缶から車両への給油を仮設の燃料供給拠点において実施した。

《今後の課題等》

- 現場での危険物仮貯蔵・仮取扱所の設置運営及び手続きの確認だけでなく、災害時に燃料を確保するための体制作りや危険物仮貯蔵・仮取扱所の設置に必要な資機材の確保について、検討が必要である。



危険物仮貯蔵・仮取扱所設置運営訓練 (2日目: 樫原市樫原運動公園)

(4) 高市総務大臣訓練視察

10月23日に五條市上野公園の訓練会場において、高市総務大臣に緊急消防援助隊等の活動状況の視察、閉会式での挨拶をいただきました。



訓練を視察する高市総務大臣



閉会式で隊員に敬礼をする高市総務大臣

6. おわりに

今回の訓練は、被災地の地理的特性を踏まえた訓練想定を設定し、実践的なブラインド型訓練を実施しました。

調整本部を中心とした受援体制の確認や、関係機関と連携した救助・救出活動訓練を実施できたこと、また、危険物仮貯蔵・仮取扱所設置運営訓練を行い、災害時に重要課題となる燃料補給の早期の体制作りについて検証できたことは、大変有意義でした。

今後、本訓練で得られた成果や課題等を踏まえ、緊急消防援助隊の応受援体制の更なる充実強化に努めてまいります。

最後に、本訓練開催に際しまして、多大な御協力を賜りました関係府県、参加消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。



## 関東ブロック 栃木県実行委員会

平成28年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練は、『指揮運営・部隊管理能力の向上』と『災害対応力の更なる強化』を主眼とし、図上訓練と実動訓練を一部連動させた訓練を、栃木県内複数の会場で同時に実施しました。

### 1. 実施日

平成28年10月17日(月)～10月18日(火)

### 2. 実施場所

栃木市、小山市、上三川町、那須町

### 3. 訓練想定

平成28年10月17日(月)午前8時30分頃、栃木県南部を震源とする震度5強の直下型地震(前震)が発生するとともに那須岳が噴火し、多くの登山者が負傷した。その後、午前9時30分頃、栃木県南部を震源とする震度6強の直下型地震(本震)が発生し、県南部の複数の市町で甚大な被害が発生している。

### 4. 指揮運営(図上)訓練

1日目は、実動訓練を実時間で実施し、緊急消防援助隊動態情報管理システム等ICTをフル活用する主眼を設定。栃木県庁に県災害対策本部、消防応援活動調整本部、航空運用調整班及び災害医療本部を設置するとともに、被災地を管轄する4つの消防本部(那須地区、栃木市、小山市及び石橋地区)に指揮本部・指揮支援本部を設置し、実動を伴う想定と仮想想定を混在させた指揮運営(図上)訓練を実施した。

2日目は、部隊移動により緊急消防援助隊を小山市のみに集結させるとともに、同市石ノ上河川敷(メイン会場)内に消防応援活動調整本部等を設置し、訓練を実施した。なお、1日目の夜及び2日目の朝に、宿営会場に拠点機能形成車等を設置し、活動方針等を検討する作戦会議を実施した。

### 《今後の課題等》

- 発災直後は、情報の緊急度と重要度を素早く選別し、必要な情報を適当なセクションに速やかに伝達しなければ、後手を踏むことになってしまうため、今後、限られた人数で効率よく行えるよう検討する必要がある。
- 訓練時間や部隊参集時の渋滞等を考慮し、進出拠点の通過時間を指定したため、発災から応援要請までの時間が非常にタイトになった。可能な限り実災害に沿った時間経過による訓練を設定する必要がある。



拠点機能形成車内での関係機関合同作戦会議

### 5. 実動訓練

#### (1) 部隊参集

栃木県緊急消防援助隊受援計画等に基づき、陸上隊は3か所、航空隊は1か所、進出拠点を指定して実施した。

なお、いくつかの航空隊は、ヘリコプター動態管理システムを活用して任務付与を行い、進出拠点に立ち寄ることなく訓練会場等に直接出動する計画であったが、当日の天候不良により出動を中止することとなった。

また、航空自衛隊入間基地において、自衛隊輸送機(C-130)に大規模震災用高度救助車等の搭載訓練を行った。



C-130輸送機搭載訓練(航空自衛隊入間基地)

### 《今後の課題等》

- 陸上隊の進出拠点をインターチェンジとしたが、新道開通等道路事情の変化や進出拠点に求められるニーズ(集結に必要な広さ、施設の優先的な使用等)に応えられるよう、本訓練を踏まえ計画の修正も必要である。



## (2) 部隊運用訓練

1日目は、県内4か所において、火山噴火災害、大規模危険物火災、土砂災害、毒劇物災害等計7種目の訓練をほぼ同時刻に会場を分散して実施した。

2日目は、メイン会場に全ての緊急消防援助隊が集結し、河川氾濫、橋梁倒壊、土砂災害に対応する訓練を実施した。

また、自衛隊、警察、DMAT等の関係機関と合同で訓練を実施し、連携強化を図った。

### 《今後の課題等》

- 消防庁無償貸与資機材のドローンを活用し、情報収集を行った。山岳部や土砂災害等により、隊員が危険な場所に入らず、情報収集が可能であり非常に有効であった。今後、より有効に活用できるよう、大隊の中での活用や消防庁・都道府県等への伝送などについて検討が必要である。



情報収集活動（栃木市岩船山）



火山噴火災害対応訓練（那須町那須岳）



現地合同調整所の様子（小山市石ノ上河川敷）

## (3) 後方支援活動訓練

指揮支援隊は、実災害を想定し、訓練を実施した消防本部内で宿営を行った。都県大隊は、県内3か所（那須町、栃木市及び小山市）に分散して宿営訓練を実施し、うち1か所は体育館を使用し、屋内で実施した。

なお、栃木市会場では、民間石油業者の協力を得て、タンクローリーを訓練会場に派遣し、燃料補給訓練を実施した。

### 《今後の課題等》

- 都県大隊の宿営会場は、『緊急消防援助隊広域活動拠点に関する調査報告書（平成25年3月）』を参考に、駐車場やテント設営面積を算定し訓練を行った。この検証結果を踏まえ、県内の宿営場所を再度検討する必要がある。

## 6. おわりに

指揮運営（図上）訓練では、指揮支援隊の割振りなどをあらかじめ設定した“セミブラインド型訓練”を行い、部隊運用訓練では、実災害現場と同様、訓練会場に到着して初めて状況が分かる“ブラインド型訓練”を行った。その結果、情報の選別や伝達方法、進出拠点や宿営場所の再検討や、関係機関との連携方法など多くの課題を得ることができました。

今後、今回の訓練で得られた成果や課題を踏まえ、県広域消防応援等計画や緊急消防援助隊受援計画の見直しなど、更なる受援体制の充実強化を進める予定です。

また、県内全ての消防本部から訓練企画職員を選出していただいたこともあり、これまで以上の強力な顔の見える関係を構築できたことも、非常に大きな成果でした。

最後に、今回の訓練開催に際し、多大な御協力を賜りました関東ブロック内各都県、消防機関、防災等関係機関の皆様、並びに訓練会場や資材を快く貸し出していただきました地元企業や自治体の皆様に対し、衷心より感謝申し上げます。

### 問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室  
TEL: 03-5253-7527（直通）